

< 国豊橋 >

◇ 諸元等

- ・所在地：柏原市高井田～国分本町
- ・路線名：国道 25 号線
- ・建設年：新橋 1999 年(平成 11 年)、
(旧橋：1932 年(昭和 7 年))
- ・形式：4 径間連続鋼床版箱桁橋
- ・橋長：178.1m
- ・支間長：43.0+45.45+45.45+43.0m
- ・幅員：18.3m



◇ 歴史

大阪と奈良を結ぶ奈良街道の中間地点として栄えた国分村のすぐ北にあり、江戸時代には渡しにより通行していたが、明治 3 年(1870)に最初の橋が木橋で架けられた(長さ 98 間、幅 1 間)。建設に要した総費用は 787 両、街道周辺の村々、奈良からも寄付が集まったが、300 両が不足、不足分は明治 5 年から 9 年まで、一人 3 文の通行料を取って補った。

当初は「国分橋」と呼ばれ、国分と高井田の間に架かることから「くにたか(国高)」→転じて「国豊(くにたか)橋」と改めたが、いつしか「くにとよ」橋と呼ばれるようになった。

昭和 7 年(1932)にコンクリート製の永久橋に架け替えられ、自動車交通の発展に耐えうるものとなった。当時の写真からは、親柱には装飾灯、欄干には照明灯が取り付けられていたことが分かる。

その後、昭和 41 年(1966)には歩道を増設、平成 11 年(1999)には、上流(東)側に新しい橋が架け替えられた。3 車線分(片側 1 車線+両岸の交差点の右折レーン分)の自動車道路と両側各 3.5m 幅の歩行者・自転車道となった。

◇ 特徴

北詰交差点はかつては純然たる T 字路であり国道 25 号は左折・右折していたが国道 25 号に沿ってカーブさせて優先的に通行するように改められた。



北詰交差点



国豊橋親柱

◇ 周辺環境

すぐ近くに、柏原歴史資料館、高井田横穴群があり、歴史を学ぶことができる。

また、周辺の古市古墳群は、世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」に登録されており、大きさが応神天皇陵(425m)から方墳(10m 未満)まで、バラエティに富み、被葬者の階層性をうかがわせる。

◇ 参考文献： “Wikipedia”